

プロジェクト課題選択時の留意点

プロジェクト課題選択（＝所属チーム選択）に当たって、留意して戴きたい点を列記します。参考にして下さい。

1：ざっくりした課題 or 絞り込んだ課題

ざっくり：具体的なプロジェクト構想に絞り込む自由と苦勞＜＞絞り込むことを通じた学び
絞り込み：対象が明確な利点＜＞一定の枠＝制約内で工夫しなければならない苦勞と学び

2：老舗チーム or 新規チーム

老舗：先輩が築いてくれた人脈と資産の恩恵＜＞過去の経緯を全く無視はできない制約
新規：全てをゼロから作らねばならない苦勞＜＞全てをゼロから作れる自由

3：連携先 or フィールドが遠方

日頃の情報交換や、フィールドワークでの移動の負荷＜＞学内だけでは得られない学び
*チーム活動の交通費は、基本的に自己負担です。
*但し、「公共交通機関が（事実上）無い地域」でのフィールドワークについては、原則的に大学側で足を用意します。

4：カテゴリDの特殊事情

- (1)主として夏季休暇中（＝具体的な日取りは、受入先とご相談の上で決定）に、いわゆるインターンシップを行います。実施に伴う交通費や宿泊費等は、基本的に自己負担になります。
- (2)インターンシップレポート（体裁は、人文社会科学部インターンシップレポートに準拠）の提出が義務づけられます。

5：チームの人数を巡って

- (1)単独チーム成立の原則は「5名以上9名以下」です。
- (2)10名を越える場合は、大チーム・小チーム制を採ることができます。
→大チーム内小チームは、5名に満たなくても設定可能です。つまり、「10名を越える場合は、チーム成立の可否に関してあまり心配することは無い」ということです。問題は、下記の「5名に満たない場合」です。
- (3)5名に満たない場合でも、杓子定規に「単独チーム不成立・他チームへ移籍」とはしません。しかし、人数が少ないとそれだけ一人当たりの負荷も大きくなります。かつて4名で単独チームを作った某プロジェクトのメンバーは、年度末に「人数不足で非常に苦勞した」との感想を漏らしています。「5名未満でも単独チームを立てるか否か」については、慎重に判断して下さい。
- (4)「プロジェクト課題Aに2名・同Bに3名。このままでは、どちらのチームも不成立」といったようなケースで、かつお互いのプロジェクト課題に親和性が高い場合は、この5名で単独チームを立ち上げて、プロジェクト課題A・Bのどちらにも対応するプロジェクトを構想する、という手もあります。
- (5)履修登録期間中であれば、新たに友人を引っ張り込んで5名の基準を満たすことも可能です。
→新規参加者には、教員側からもフォローアップをして、不利を被らないよう配慮します。